

內科 與子

編 者

總編輯 一夫良友 廖明誠

五 其 重 我 恩 德 恩 德 恩 德

附 內 科 本 合 本 本 本 本 本 本 本 本

上 武 岡 池 河 經 竹 龜 中 題 三 村 市

内科学

編集

雄郎 裕雄 一夫 良夫 臣彦 朗誠 馨

英重 秀忠 信忠 康元 淑史

田内部 本合 本本 倉村 内輪 尾永

上武 阿池 河坂 竹豊 中堀 三村 吉

朝倉書店

序

英語圏の国々のみならず、世界を通じてもっとも普及し、代表的内科学書とされているのは Beeson & McDermott (もとの Cecil & Loeb) の “Textbook of Medicine” であろう。これはこの書が 200 名の専門家により、高度のレベルで、しかもあまりに専門的にかたよりすぎないように慎重な配慮のもとに、内科的諸疾患についての最新の知見が記述されており、ある疾患に遭遇したとき、これをひもとけばその疾患についての現在の考え方、治療などがきわめて明快に理解されるという特長を有しているためであろう。この書がコンパクトに 1 冊にまとめられていることも重要な点といってよい。

わが国にもすでに多くの内科学書があり、それぞれすぐれた特色をもっているが、Beeson & McDermott の内科学書のような性格の本はほとんどないように思われる。私どもはかねがねこのような性格の内科学書がわが国でも刊行されることを強く望んでいた。そのような内科学書は内科学教育の改善に大きく寄与し得ると考えたからである。

本書の出版は、本来、私どもが内科医学教育を行なっている間に抱いていた上述の内科学教育改善の念願をはたすために企画したのであるが、現実の動機は、榑原 仟教授編著『外科学』を昨年出版した朝倉書店の勧奨により、『外科学』に釣り合う『内科学』を企画・編集して欲しいと懇望されたことによる。私どもの年来の構想に合致するので、引き受けることにしたのである。

さて内科学の分野は広く、その進歩は早いので、権威ある内容をもり、重要な点を取り入れるためには各領域の専門家に執筆してもらう必要がある。しかも刊行を早くするためにも多数の共同執筆者の協力を得なければならない。そこで、現在内科学各分野の権威であり医学教育にたずさわっておられる、阿部 裕 (阪大)、池本秀雄 (順天堂大)、河合忠一 (京大)、坂本信夫 (名大)、竹本忠良 (山口大)、豊倉康夫 (東大)、中村元臣 (九大)、堀内淑彦 (東大)、三輪史朗 (山口大)、村尾 誠 (北大)、吉永 馨 (東北大) の各教授に各部門の責任編集者になっていただき、その構想により 222 名の執筆者が定められた。この多数の執筆者の協力と熱意により、企画してからわずか 2 年以内に印刷を終り完成をみる事ができた。

本書の記述は、簡潔であり要点を網羅しているが、羅列的でなく、重点を明示することになっている。基礎的なものをはっきり教え、診断の項では鑑別診断を明記している。また最近の学生は視覚的教育に慣れているので、300 余の図と 500 余の写真を入れ理解しやすくした。内科学の進歩、たとえば成因・診断法・治療に関する最新の成果を取り入れ、記述内容を新鮮なものとした。また、可能な限り、わが国あるいは筆者自らの資料にもとづいて記載し、わが国の特色を明らかにするよう努力した。

刊行にあたり、編集者・執筆者の皆様にご礼するとともに朝倉書店の熱意と奉仕に感謝する。

最後に、本書が卒前医学生の内科学学習のガイドとなり、卒後医師の内科学の知識更新の宝典となることを期待する。

1977 年 6 月

上 田 英 雄
武 内 重 五 郎

執筆 者

第1章 内科学総論

上 田 英 雄 前 東京大学教授
宮 本 成 章 九州大学講師
堀 内 淑 彦 東京大学教授
武 内 重 五 郎 東京医科歯科大学教授
谷 口 興 一 東京医科歯科大学講師

第2章 感染症および寄生虫疾患

池 本 秀 雄 順天堂大学教授
清 水 喜 八 郎 筑波大学助教授
加 地 正 郎 九州大学教授
平 石 浩 豊島病院院長
深 谷 一 太 東京大学医科学研究所
山 作 房 之 輔 水原郷病院部長
原 耕 平 長崎大学教授
島 尾 忠 男 結核研究所所長
小 林 讓 愛媛大学教授
福 島 孝 吉 横浜市立大学教授
藤 田 紘 一 郎 金沢医科大学教授

第3章 循環器系の疾患

高 安 正 夫 国立京都病院院長
河 合 忠 一 京都大学教授
神 原 啓 文 京都大教第三内科
河 村 慧 四 郎 京都大学第三内科
楠 川 礼 造 天理よろず相談所病院部長
小 西 與 承 京都大学第三内科
橋 場 邦 武 長崎大学教授
中 村 元 臣 九州大学教授
春 見 建 一 昭和大学教授
新 谷 博 一 昭和大学教授
山 口 洋 虎の門病院部長
関 口 守 衛 東京女子医科大学助教授
小 出 直 東京大学第二内科
滝 島 任 東北大学教授
羽根田 隆 東北大学第一内科
仁 村 泰 治 大阪大学助教授
榊 原 博 大阪大学講師
杉 下 靖 郎 筑波大学助教授
依 藤 進 兵庫医科大学教授
谷 口 興 一 東京医科歯科大学講師
草 場 昭 九州大学第二外科
石 川 中 東京大学助教授

第4章 血圧の異常

増 山 善 明 和歌山県立医科大学教授
尾 前 照 雄 九州大学教授
荻 野 耕 一 京都大学助教授
大 塚 庸 一 東北大学第二内科
吉 永 馨 東北大学教授
富 永 忠 弘 東北大学第二内科

第5章 呼吸器系の疾患

岡 安 大 仁 日本大学助教授
長 野 準 国立南福岡病院院長
井 上 魁 夫 国立南福岡病院医長
佐 竹 辰 夫 名古屋大学教授
西 本 幸 男 広島大学教授
西 田 修 実 広島大学講師
田 中 元 一 東京通信病院医長
滝 沢 敬 夫 東京女子医科大学教授
小 池 繁 夫 東京大学講師
松 本 慶 蔵 長崎大学教授
山 本 正 彦 名古屋市立大学助教授
近 藤 有 好 新潟大学助教授
三 上 理 一 郎 奈良県立医科大学教授
本 間 行 彦 北海道大学講師
長 浜 文 雄 国立札幌病院副院長
島 正 吾 名古屋保健衛生大学教授
青 柳 昭 雄 慶応義塾大学内科
渡 辺 昌 平 千葉大学教授
滝 沢 弘 隆 千葉大学肺癌研究施設
小野寺 壮 吉 旭川医科大学教授
笠 置 商 次 札幌医科大学助教授
平 賀 洋 明 札幌鉄道病院医長
谷 本 普 一 虎の門病院部長

第6章 消化管・膵・腹膜の疾患

柚 木 一 雄 鹿児島大学教授
春日井 達 造 愛知県がんセンター部長
木 暮 喬 東京大学助教授
常 岡 健 二 日本医科大学教授
瀬 底 正 彦 日本医科大学講師
黒 川 きみえ 東京女子医科大学助教授
竹 本 忠 良 山口大学教授
種子田 哲 郎 鹿児島大学第二内科
市 岡 四 象 東京女子医科大学教授

小 黒 八七郎 国立がんセンター医長
 崎 田 隆 夫 筑波大学教授
 上 野 恒太郎 山形大学助教授
 中 川 哲 也 九州大学助教授
 木 原 彊 川崎医科大学教授
 中 江 遵 義 東京女子医科大学内科
 川 井 啓 市 京都府立医科大学教授
 細 田 四 郎 滋賀医科大学教授
 笹 川 力 新潟市民病院副院長
 織 畑 秀 夫 東京女子医科大学教授
 土 屋 雅 春 慶応義塾大学教授
 石 井 公 道 北里大学講師
 羽 白 清 近畿大学講師
 神 津 忠 彦 東京女子医科大学講師
 多賀須 幸 男 関東通信病院部長
 三 輪 剛 東海大学教授
 中 崎 久 雄 東海大学外科
 田 中 弘 道 鳥取大学助教授
 三 好 洋 二 鳥取大学第二内科

第7章 肝・胆道の疾患

鈴 木 宏 東京大学講師
 滝 野 辰 郎 京都府立医科大学助教授
 高 橋 示 人 京都府立医科大学講師
 佐々木 博 新潟大学助教授
 太 田 康 幸 愛媛大学教授
 堀 口 正 晴 東京慈恵会医科大学教授
 田 中 照 二 東京慈恵会医科大学内科
 真 弓 忠 自治医科大学助教授
 東京都立臨床医学総合研究所
 上 野 幸 久 三宿病院副院長
 高 田 昭 金沢医科大学教授
 浪 久 利 彦 順天堂大学教授
 伊 藤 進 千葉大学講師
 高 橋 善弥太 岐阜大学教授
 辻 井 正 奈良県立医科大学教授
 服 部 信 金沢大学教授
 増 田 久 之 秋田大学教授
 海 藤 勇 岩手医科大学教授

第8章 リウマチ性疾患およびアレルギー性疾患

水 島 裕 東京大学物療内科
 吉 沢 久 嘉 国立相模原病院医長
 広 瀬 俊 一 東京大学物療内科
 橋 本 明 東京大学物療内科
 横 張 龍 一 国立医療センター室長
 村 田 克 己 東京大学物療内科
 東 威 自衛隊中央病院課長

谷 本 潔 昭 東京大学物療内科
 赤 岡 家 雄 東京大学物療内科
 清 水 保 帝京大学教授
 川 上 保 雄 昭和大学教授
 宮 本 昭 正 東京大学講師
 小 林 節 雄 群馬大学教授
 信 太 隆 夫 国立相模原病院医長
 村 中 正 治 東京大学講師
 高 橋 昭 三 昭和大学教授
 可 部 順三郎 国立医療センター医長

第9章 腎・尿路系の疾患

浦 壁 重 治 元大阪大学助教授
 折 田 義 正 大阪大学第一内科
 竹 田 亮 祐 金沢大学教授
 越 川 昭 三 昭和大学教授
 田 中 政 日赤医療センター部長
 本 田 西 男 浜松医科大学教授
 杉 野 信 博 東京女子医科大学教授
 清 水 美津子 東京女子医科大学内科
 田 仲 謙次郎 宮崎医科大学教授
 三 輪 東一郎 東京女子医科大学内科
 佐 藤 威 東海大学教授
 中 川 成之輔 東京医科歯科大学第二内科
 吉 沢 信 行 日本大学講師
 酒 井 紀 東京慈恵会医科大学助教授
 松 本 文 夫 汐見台病院副院長
 木 田 寛 金沢大学第一内科
 高 桜 英 輔 黒部市民病院医長
 篠 田 晤 金沢医科大学教授
 大 沢 源 吾 新潟大学講師
 河 村 信 夫 東海大学助教授
 加 藤 暎 一 慶応義塾大学助教授
 石 本 二見男 東京慈恵会医科大学講師

第10章 内分泌系の疾患

清 水 直 容 帝京大学教授
 井 村 裕 夫 京都大学教授
 出 村 博 東京女子医科大学助教授
 吉 田 尚 自治医科大学教授
 吉 永 馨 東北大学教授
 木 村 時 久 東北大学第二内科
 山 田 隆 司 信州大学教授
 斎 藤 慎太郎 東北大学講師
 尾 形 悦 郎 筑波大学教授
 板 倉 光 夫 東京大学第一内科
 古 川 洋太郎 東北大学第二内科
 小 椋 陽 介 東京慈恵会医科大学講師

富田明夫 名古屋大学第一内科
 藤田拓男 和歌山県立医科大学教授
 熊谷朗 千葉大学教授
 相田光保 東北大学講師
 福地総逸 福島県立医科大学教授
 河野剛 京都大学講師
 三浦幸雄 東北大学第二内科
 竹田亮祐 金沢大学教授
 山田律爾 独協医科大学教授
 佐藤辰男 熊本大学教授
 井林博 九州大学教授
 阿部圭志 東北大学講師

第11章 代謝・栄養の異常

繁田幸男 大阪大学講師
 泉寛治 国立大阪病院医長
 岡博 東京大学助教授
 坂本信夫 名古屋大学教授
 馬場茂明 神戸大学教授
 中川昌一 北海道大学教授
 小坂樹徳 東京大学教授
 堀田饒 名古屋大学第三内科
 藤沢冽 東京慈恵会医科大学助教授
 沢木俤二 愛知医科大学教授
 大根田昭 東北大学講師
 丸浜喜亮 東北大学講師
 高久史麿 自治医科大学教授
 菊地三郎 名古屋大学助教授
 奥山澄彦 名古屋大学講師
 富田明夫 名古屋大学第一内科

第12章 血液疾患

刈米重夫 福島県立医科大学教授
 小鶴三男 九州大学助教授
 阿部帥 筑波大学助教授
 八幡義人 川崎医科大学助教授
 野村武夫 東京医科歯科大学助教授
 堀内篤 近畿大学教授
 岩永隆行 近畿大学内科

柴田昭 秋田大学教授
 入交清博 近畿大学助教授
 今村幸雄 国立医療センター医長
 藏本淳 広島大学教授
 三輪史朗 山口大学教授

第13章 神経および筋肉系の疾患

豊倉康夫 東京大学教授
 平山恵造 順天堂大学助教授
 中西孝雄 筑波大学教授
 長谷川恒雄 伊豆山温泉病院院長
 岸久博 伊豆山温泉病院部長
 後藤文男 慶応義塾大学教授
 中原克彦 慶応義塾大学内科
 平川公義 東京大学助教授
 荒木淑郎 宮崎医科大学教授
 黒岩義五郎 九州大学教授
 柴崎浩 九州大学神経内科
 木下真男 東邦大学助教授
 里吉營二郎 東邦大学教授
 片山宗一 独協医科大学教授
 安藤一也 多治見病院部長
 井形昭弘 鹿児島大学教授
 天野博 鹿児島大学第三内科
 椿忠雄 新潟大学教授
 古川哲雄 東京大学神経内科

第14章 環境要因による疾患

谷口興一 東京医科歯科大学講師

第15章 中毒

沢木俤二 愛知医科大学教授

第16章 内科における救急処置

外山淳治 名古屋大学助教授
 神原啓文 京都大学第三内科
 大崎饒 北海道大学助教授
 菊地三郎 名古屋大学助教授
 四方淳一 帝京大学教授
 付正常値
 椎名晋一 東京医科歯科大学教授

(執筆順)

凡 例

1. 外国人名は原語綴りとした。

2. 薬品名について：

1) 同一効果の薬品名の総称の場合はカナ書きとした。

〔例〕 テトラサイクリン系

セファロスポリン C 系

サルファ剤

2) 単独薬品名は原則として原語綴りとし、一般名は小文字で、商品名は大文字で始めた。ただし一般名でも段落のはじめにくるときは大文字とした。

〔例〕 *frosemide* (一般名)

Endoxan (商品名)

3. 酵素名について： きわめて普遍的なものは原則としてカナ書きとし、それ以外は原語綴りとした。

〔例〕 アミラーゼ

リパーゼ

アルカリ性フォスファターゼ

catechol-O-methyl transferase

phosphoglucomutase

4. その他の術語は原則として『医学用語辞典』(日本医学会医学用語委員会編, 南山堂, 1975) に拠った。

目 次

第1章 内科学総論

1. 内科学とは	(上田英雄)	1
a. 内科学の本質		1
b. 医学と内科学の概念		1
c. 医学のなかにおける内科学の位置づけ		1
d. 内科学の細分化と総合		1
2. 内科疾病史—内科疾患の消長・変遷	(上田英雄)	2
a. 内科疾患の過去・現在・将来		2
b. 内科学教室入院疾患の消長		2
c. 内科疾患の時代による変遷の原因		5
d. 近い将来の内科疾患の推測		6
3. 患者のみかた	(上田英雄)	7
a. 患者との会話		7
b. 患者の診察		7
c. 臨床検査室の使用		7
d. 診断的X線学検査法		8
e. 診断への過程		8
f. 患者の総合処置		8
4. 疾病の遺伝機構	(宮本成章)	8
a. 単純遺伝による疾病		8
b. 多因子遺伝の機構による疾病		8
c. 染色体異常による疾病		11
5. 疾病と免疫アレルギー	(堀内淑彦)	13
a. 免疫		13
b. 自己免疫		13
c. アレルギー		13
d. 免疫反応の内科学への応用		14
6. 加齢と老化	(武内重五郎・谷口興一)	14
a. 基本概念		14
b. 老化の制御		15
c. 老化と疾患		15
7. 心身医学と疾患	(武内重五郎・谷口興一)	17
a. 心身医学と循環器疾患		17
b. 心身医学と呼吸器疾患		18
c. 心身医学と消化器疾患		19
d. 治療		19
8. 医原性疾患と人為的因子 (武内重五郎・谷口興一)		20
a. 暗示		20
b. 薬剤の副作用		20
c. 放射線障害		21
d. 外科手術		22

e. 診断操作	22
---------	----

第2章 感染症および寄生虫疾患

I. 感染症	25
1. 総論	25
a. 感染に対する宿主抵抗の機序 (池本秀雄)	25
b. 宿主・微生物関係とその変貌	25
c. おもな感染症と原因菌	26
d. 病原的診断	26
e. 免疫学的診断	27
f. 法定伝染病・屈出伝染病	27
g. 予防ことに伝染病の防除対策	28
h. 一般療法	28
i. 化学療法 (清水喜八郎)	28
2. ウイルス感染症	32
1) 普通感冒 (加地正郎)	32
2) インフルエンザ	33
3) その他の呼吸器ウイルス感染症	34
4) 流行性胸膜痛	35
5) 麻疹 (平石浩)	36
6) 風疹	36
7) ポリオおよびポリオ様疾患	36
8) 水痘(みずぼうそう)	37
9) 带状疱疹	37
10) 痘瘡	38
11) 日本脳炎およびその他のウイルス脳炎	38
12) リンパ球性脈絡髄膜炎	40
13) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	40
14) 狂犬病 (深谷一太)	41
15) 伝染性単核症	41
16) サイトメガロウイルス感染症	42
17) 手足口病	42
18) デング熱	42
19) 黄熱	43
20) 猫ひっかき病	43
21) 突発性発疹	43
22) 伝染性下痢症	43
23) トラコーマ病原体および封入体結膜炎病原体	43
3. クラミジア感染症 (山作房之輔)	44
1) オウム病(トリ病)	44
2) 鼠径リンパ肉芽腫症	44
4. リケッチア感染症 (山作房之輔)	44
1) 発疹チフス	45

2) 発 疹 熱	45	3) レプトスピラ病	74
3) つつが虫病	45	付. 鼠 咬 症	76
4) ロッキー山紅斑熱・壺壕熱・Q熱	46	9. 真 菌 症	(福島孝吉) 77
5) 腺熱リケッチア症	46	1) 放線菌症	77
5. 細菌感染症	46	2) ノカルジア症	77
1) 肺炎球菌感染症	(池本秀雄) 46	3) カンジダ症	78
2) レンサ球菌感染症	47	4) クリプトコックス症	79
3) ブドウ球菌感染症	48	5) アスペルギルス症	80
4) 髄膜炎菌感染症	49	6) その他の真菌症	80
5) 淋(りん)菌感染症(淋疾)	50	(1) ムコール症	80
6) 腸チフス・パラチフス	(平石 浩) 51	(2) トルロブシス症	81
(1) 腸チフス	51	(3) クロモ症	81
(2) パラチフス	52	(4) スポロトリクム症	81
7) その他のサルモネラ感染症	52	(5) ヒストプラズマ症	81
8) 細菌性赤痢(疫痢)	53	(6) コクシジオイデス症	81
9) コレラ	54	(7) プラストミシス症	81
10) 大腸菌感染症	(原 耕平) 54	(8) パラコクシジオイデス症	81
11) 緑膿菌感染症	56	10. 原虫性疾患	(深谷一太) 81
12) クレブシエラ感染症	58	1) 赤痢アメーバ症	81
13) プロテウス感染症	59	2) マラリア	82
14) 百日咳	60	3) トリパノゾーマ症	83
15) インフルエンザ菌感染症	60	4) ライシュマニア症	83
16) 軟性下疳	(池本秀雄) 61	(1) 内臓ライシュマニア症	83
17) ブルセラ症(波状熱)	62	(2) 皮膚ライシュマニア症	83
18) ペスト	62	(3) 鼻口腔または粘膜皮膚ライシュマニア症	83
19) 野兎病(ツラレミア)	62	5) トキソプラズマ症	83
20) 鼻 疽	62	6) <i>Pneumocystis carinii</i> 感染症	84
21) 類 鼻 疽	62	II. 寄生虫疾患	(藤田紋一郎) 84
22) 炭 疽	63	1. 序 論	84
23) ジフテリア	63	2. 線 虫 症	85
24) 嫌気性レンサ球菌感染症	63	1) 鉤 虫 症	85
25) バクテロイデス感染症	63	2) 回 虫 症	86
26) その他の無芽胞嫌気性菌感染症	64	3) 蟯 虫 症	87
27) 破 傷 風	64	4) 糞 線 虫 症	87
28) ガス壊疽	65	5) アニサキス症	87
29) 細菌性食中毒	65	6) Bancroft 糸状虫症	88
30) マイコプラズマ感染症	(原 耕平) 66	3. 条 虫 症	89
(1) <i>M. pneumoniae</i> 感染症	66	1) 腸管条虫症	89
(2) <i>M. hominis</i> 感染症	67	2) 腸管外条虫症	89
(3) その他の疾患	67	(1) 包虫症(エキノコックス症)	89
31) らい(癩)	(池本秀雄) 67	4. 吸 虫 症	90
32) 敗 血 症	67	1) 肝吸虫症(肝ジストマ症)	90
33) 敗血症性ショック	68	2) 肺吸虫症(肺ジストマ症)	90
34) 細菌性心内膜炎	69	3) 日本住血吸虫症	91
6. 結 核 症	(島尾忠男) 70		
7. 非定型抗酸菌症(第5章参照)	72		
8. スピロヘータ感染症	(小林 譲) 72		
1) 梅 毒	72		
2) 回 帰 熱	74		
		第3章 循環器系の疾患	
		1. 心臓疾患患者へのアプローチ	(高安正夫) 93

2. 心臓の診察と循環系検査法

..... (河合忠一・神原啓文).....94

a. 心臓の診察.....94

(1) 視診と触診.....94

(2) 打診.....97

(3) 聴診.....97

b. 循環系検査法.....101

(1) X線検査.....101

(2) 心電図.....102

(3) ベクトル心電図.....104

(4) 心音図, 頸動脈波, および心尖拍動図.....104

(5) 静脈波.....105

(6) 心放射図.....105

(7) 心エコー図またはUCG.....105

(8) 中心静脈圧, 循環時間, その他.....106

(9) 心カテーテル法.....106

(10) 心血管造影法.....108

3. 心筋の構造と機能.....(河村慧四郎).....109

a. 心筋の構造.....109

b. 心筋収縮の力学と構造.....117

c. 心臓の収縮力と仕事とその調節.....120

4. うっ血性心不全.....(楠川礼造).....123

5. 不整脈.....132

1) 刺激生成異常.....(小西興承).....132

(1) 洞結節異常と異所性刺激生成.....132

(2) 刺激生成の電気生理学的基礎.....132

(3) 洞調律異常.....133

(4) 補充収縮・補充調律.....135

(5) 副収縮.....136

(6) 期外収縮.....137

(7) 房室解離.....139

(8) 心房性不整脈.....139

(9) 房室不整脈.....142

(10) 心室不整脈.....142

(11) 発作性不整脈.....143

2) 興奮伝導障害.....(橋場邦武).....147

(1) 洞房ブロック.....147

(2) 洞停止.....148

(3) 洞機能不全症候群.....148

(4) 房室ブロック.....149

(5) 脚ブロック.....154

6. 動脈硬化と虚血性心疾患.....155

1) 動脈硬化.....(中村元臣).....155

2) 狭心症.....(春見建一).....159

3) 心筋梗塞.....(新谷博一).....164

4) 虚血性心疾患と冠動脈造影法.....(山口洋).....178

7. 先天性心疾患.....(関口守衛).....183

1) 総論.....183

2) 心房中隔欠損症.....187

3) 心内膜床欠損症.....190

4) 心室中隔欠損症.....192

5) 動脈管開存症.....194

6) Eisenmenger 症候群.....195

7) 肺動脈狭窄症.....196

8) Fallot 四徴症.....198

9) 大動脈狭窄症.....199

10) その他の先天性心疾患.....200

(1) Epstein 奇形.....201

(2) 三尖弁閉鎖症.....202

(3) 大血管転換症.....202

(4) 総動脈幹残遺症.....204

(5) 大動脈肺動脈中隔欠損症.....204

(6) 大動脈縮窄症.....204

(7) 大動脈弓異常.....205

(8) Valsalva 洞動脈瘤.....205

(9) 冠動脈奇形.....205

(10) 単心室.....205

(11) 左心形成不全症候群.....206

(12) 先天性僧帽弁疾患.....206

(13) 心内膜線維弾性症.....206

(14) 心臓の位置異常.....206

8. 後天性弁膜症.....(小出直).....209

1) 僧帽弁狭窄症.....209

2) 僧帽弁閉鎖不全症.....211

3) 大動脈弁狭窄症.....214

4) 大動脈弁閉鎖不全症.....215

5) 三尖弁狭窄症.....217

6) 三尖弁閉鎖不全症.....217

7) 肺動脈弁狭窄症.....217

8) 肺動脈弁閉鎖不全症.....218

9. 肺性心疾患.....(滝島任).....218

10. 心膜疾患.....(仁村泰治・神原博).....223

1) 急性心膜炎.....223

2) 慢性収縮性心膜炎.....227

付. 滲出性収縮性心膜炎.....229

3) 非炎症性的心膜腔液貯留.....229

(1) 心膜水腫.....229

(2) 粘液水腫.....229

(3) 慢性特発性心膜滲出.....229

(4) 心膜血腫.....229

11. 心筋疾患.....(杉下靖郎).....229

1) 特発性心筋症.....229

(1) 肥大型心筋症.....230

(2) うっ血型心筋症.....233

(3) 拘束性(緊縮性)心筋症.....234

2) 心臓腫瘍.....236

3) 心アミロイドーシス.....236

12. 大動脈疾患.....(依藤進).....236

1) 大動脈瘤	236
(1) 解離性大動脈瘤	236
(2) 外傷性大動脈瘤	238
(3) 動脈硬化性大動脈瘤	238
(4) 梅毒性大動脈瘤	238
(5) 細菌性動脈瘤	239
2) 大動脈閉塞	239
(1) 大動脈終末部の血栓	239
(2) 大動脈終末部の塞栓, 鞍状塞栓	240
3) 大動脈の炎症	240
(1) 大動脈炎症候群, 高安病, 大動脈弓症候群, 脈なし病	240
(2) 巨細胞大動脈炎, 側頭動脈炎	241
(3) 強直性脊椎炎による大動脈炎	241
(4) その他の大動脈炎	241
4) 先天性大動脈疾患	241
(1) 大動脈縮窄症	241
(2) Valsalva 洞動脈瘤破裂	242
(3) 血管輪	243
13. Marfan 症候群と心血管病変	243 (谷口興一)
14. 末梢動脈および静脈疾患	245 (草場 昭)
1) 動脈系疾患	245
(1) 急性動脈閉塞症	245
(2) 慢性動脈閉塞性疾患	246
(3) 機能的動脈疾患	247
2) 静脈系疾患	247
(1) 静脈血栓症, 血栓性静脈炎	248
(2) 静脈炎後症候群	249
(3) 下肢静脈瘤	249
15. 神経循環無力症	250 (石川 中)
16. 各種疾患における循環異常	251 (石川 中)
1) 甲状腺機能亢進症	251
2) 粘液水腫	251
3) 貧血	252
4) 尿毒症	252
5) 人工透析	252

第4章 血圧の異常

I. 高血圧	253
1. 高血圧とは	253 (増山善明)
2. 高血圧をきたす疾患	254
3. 本態性高血圧症	255
概念	255 (尾前照雄)
心血管障害	256
頻度・社会的意義	259
成因論	260 (荻野耕一)
診断・鑑別診断	265 (大塚庸一・吉永 馨)
予後	269 (富永忠弘)

治 療	274
-----	-----

II. 低血圧	277 (吉永 馨)
---------	------------

第5章 呼吸器系の疾患

1. 総 論	279
a. 一般検査法による評価	279 (岡安大仁)
(1) 打 聴 診	279
(2) 喀 痰 検 査	280
(3) 胸水の検査	280
(4) X 線 検 査	281
(5) 血液・免疫学的検査	281
(6) 内視鏡検査	282
(7) 生 検 法	282
(8) ラジオアイソトープ検査	282
(9) そ の 他	283
b. 肺機能による評価	283 (長野 準・井上 勉夫)
(1) 換気障害	283
(2) 肺内ガス分布障害	286
(3) 肺拡散障害	287
(4) 血液ガスおよび酸塩基平衡異常	287
付. 肺機能に用いられる記号	289
c. 咳・痰とその対策	290 (佐竹辰夫)
(1) 咳	290
(2) 痰	291
d. 急性および慢性呼吸不全とその対策	292 (西本幸男・西田修実)
2. 気道および肺の疾患	298
1) かぜ症候群	298 (田中元一)
2) 気管支炎	299
(1) 急性気管支炎	299
(2) 慢性気管支炎	300
(3) 細気管支炎	303
3) 気管支拡張症	304
4) 嚢胞性肺疾患	305 (滝沢敬夫)
5) 慢性肺気腫	306
付. 慢性閉塞性肺疾患の概念	310
付. 拘束性肺疾患の概念	311
6) 過換気症候群	312 (小池繁夫)
7) 低換気症候群	313
8) 肺炎および肺化膿症	314 (松本慶蔵)
9) 肺 結 核	320 (山本正彦)
10) 非定型抗酸菌症および真菌症	324
(1) 肺非定型抗酸菌症	324
(2) 肺 真 菌 症	324
11) 寄生虫性肺疾患	325
(1) 肺アメーバ症	325
(2) ニウモシスチス・カリニー肺炎	325
(3) 肺トキソプラズマ症	325

(4) 肺ジストマ症	325
(5) 肺住血吸虫症	326
(6) 線虫類による肺感染症	326
(7) 肺包虫症	326
12) アレルギー性要因が考慮される肺疾患 (近藤有好)...	326
(1) 気管支喘息	326
(2) PIE 症候群	326
(3) アレルギー性気管支肺アスペルギルス症	328
(4) 肺血鉄症	328
(5) 過敏性肺臓炎	329
(6) 肺シスチオサイトーシス	330
13) 膠原病に伴う肺疾患	331 (三上理一郎)...
14) サルコイドーシス	332
15) び慢性肺胞隔炎(間質性肺炎)および肺線維症 (本間行彦)...	335
16) 放射線および薬物性肺臓炎および肺線維症 (長浜文雄)...	336
(1) 放射線肺臓炎および放射線肺線維症	336
(2) 薬物性肺臓炎および肺線維症	338
17) ガスおよび粉じん吸入による肺疾患 (島 正 吾)...	339
18) 無 気 肺	345 (青柳昭雄)...
19) 成人呼吸窮迫症候群	346
20) レスピレーター・O ₂ 吸入による肺障害	347
21) 肺胞タンパク症および肺胞微石症	347
(1) 肺胞タンパク症	347
(2) 肺胞微石症	348
22) 肺 癌	348 (渡辺昌平・滝沢弘隆)...
(1) 原発性肺癌	349
(2) 転移性肺腫瘍	355
23) 肺循環障害	357 (小野寺杜吉)...
(1) 肺塞栓、梗塞症	357
(2) 肺血管炎	358
(3) 肺 性 心	360
(4) 肺うっ血	361
(5) 肺 水 腫	362
3. 胸膜の疾患	363 (笠置商次)...
1) 自然気胸	363
2) 水胸・血胸・胸膜炎・膿胸	365
3) 胸膜腫瘍	367
4. 縦隔の疾患	367 (平賀洋明)...
1) 縦 隔 炎	367
2) 縦隔ヘルニア	367
3) 縦 隔 腫 瘍	368
5. 横隔膜の疾患	371 (谷本普一)...
1) 横隔膜の炎症	371
2) 横隔膜麻痺の位置および動きの異常	371
3) 横隔膜ヘルニア	372

(1) 外傷性横隔膜ヘルニア	372
(2) 非外傷性横隔膜ヘルニア	372
4) 横隔膜腫瘍	372
6. 胸郭の異常	372 (谷本普一)...
1) 鳩 胸	372
2) 漏 斗 胸	373
3) ピラミッド胸	373
4) ビール樽胸郭	373
5) 収縮した胸郭	373
6) 胸椎後側弯症	373

第6章 消化管・膵・腹膜の疾患

1. 総 論	375 (柚木一雄)...
1) 症 候 論	375
2) 検査のすすめ方	380
3) 消化管ホルモン	382
2. 口腔疾患	387 (春日井達造)...
1) 口 内 炎	387
(1) カタル性口内炎	387
(2) 潰瘍性口内炎あるいは Vincent 口内炎	387
(3) アフタ性口内炎	387
(4) 慢性アフタ性口内炎	387
(5) Behçet 病類似疾患による口内炎	387
(6) 口内真菌症	387
(7) 壊疽性口内炎	387
(8) 原発性ヘルペス性歯肉口内炎	387
2) 舌 炎	387
3. 食道疾患	389
1) 食 道 炎	389 (木暮 喬)...
2) 食道潰瘍	389
3) Mallory-Weiss 症候群 (Boerhaave 症候群)	391
4) 食 道 癌	393 (常岡健二・瀬底正彦)...
5) 食道肉腫	395
6) 食道良性腫瘍	395
7) 食道良性狭窄	396
先天性食道閉鎖症	396
先天性食道狭窄症	397
8) アカラジア	397
9) 食道裂孔ヘルニア	399
10) 食道憩室	400
11) 食道・胃静脈瘤	401
4. 胃・十二指腸疾患	401 (竹本忠良・黒川きみえ)...
1) 急性胃炎	401
2) 慢性胃炎	402
3) 胃びらん	404 (竹本忠良)...
4) 急性胃潰瘍	405 (種子田哲郎)...
5) 慢性胃潰瘍	406
6) 十二指腸潰瘍	409

7) 胃ポリープ……………(市岡四象)…411	19) 腸管癒着症……………(織畑秀夫)…458
8) 胃粘膜下腫瘍……………412	20) イレウス(腸閉塞)……………459
9) 急性胃拡張……………413	21) 虫垂炎……………460
10) 胃癌……………(小黒八七郎・崎田隆夫)…414	22) 巨大結腸症……………(石井公道・土屋雅春)…460
(1) 早期胃癌……………414	23) 腸間膜動脈閉塞症……………461
(2) 進行胃癌……………419	24) 偽膜性腸炎……………461
11) 胃肉腫……………421	6. 脾疾患……………462
(1) 胃平滑筋肉腫……………421	1) 輪状脾……………(羽白清)…462
(2) 胃悪性リンパ腫……………422	2) 急性脾炎……………463
12) 胃切除後症候群……………(上野恒太郎)…423	3) 慢性脾炎……………465
(1) ダンピング症候群……………423	4) 脾癌……………(神津忠彦)…467
(2) 輸入脚症候群……………424	5) 脾嚢胞……………470
(3) 術後栄養障害と貧血……………424	6) Zollinger-Ellison 症候群……………472
13) 成人肥厚性幽門狭窄症……………(竹本忠良)…425	7) WDHA 症候群(Verner-Morrison 症候群)…473
14) 胃神経症……………(中川哲也)…426	7. 腹膜疾患……………473
5. 腸疾患……………427	1) 急性腹膜炎……………(多賀須幸男)…473
1) 急性腸炎……………(木原 彊)…427	(1) 急性汎発性腹膜炎……………473
2) 慢性腸炎……………429	(2) 急性限局性腹膜炎……………475
3) Crohn 病……………(竹本忠良)…429	2) 慢性腹膜疾患……………475
4) 非特異性多発性小腸潰瘍……………	(1) 結核性腹膜炎……………475
……………(竹本忠良・中江達義)…432	(2) 異物性肉芽腫……………475
5) 潰瘍性大腸炎……………(竹本忠良)…433	(3) 癒着性腹膜炎……………475
6) 腸結核……………436	3) 腹膜の腫瘍……………476
7) 消化管憩室……………437	(1) 中皮腫……………476
8) 小腸腫瘍……………(竹本忠良・中江達義)…438	(2) 続発性腹膜癌症……………476
(1) 良性腫瘍……………438	(3) 腹膜仮性粘液腫……………476
(2) 悪性腫瘍……………439	付. 後膜腹腫瘍, 腸間膜・大網の腫瘍……………476
9) 大腸癌……………440	4) 横隔膜下膿瘍……………(三輪 剛・中崎久雄)…477
10) 大腸ポリープ……………442	5) 横隔膜ヘルニア……………479
11) 消化管ポリポーシス……………(川井啓市)…443	(1) 胸骨後ヘルニア……………479
(1) 家族性ポリポーシス……………443	(2) 胸腹膜孔ヘルニア……………480
(2) Gardner 症候群・Turcot 症候群・Zanca 症候群……………445	(3) 先天性横隔膜欠損部ヘルニア……………480
(3) Cronkheit-Canada 症候群……………445	(4) 外傷性横隔膜ヘルニア……………481
(4) Peutz-Jeghers 症候群……………446	8. 全身疾患と消化管……………(田中弘道・三好洋二)…481
(5) 若年性ポリポーシス……………446	1) 膠原病および近縁疾患……………481
(6) 良性リンパ性ポリポーシス……………446	(1) 全身性エリテマトーデス……………481
(7) 炎症性ポリポーシス……………447	(2) 進行性全身性硬化症(強皮症)……………481
(8) 化生性(過形成性)ポリポーシス……………447	(3) その他の膠原病……………482
(9) 胃のポリポーシス……………447	(4) 近縁疾患……………483
12) 消化管カルチノイド……………(川井啓市)…447	2) その他の全身疾患……………484
13) タンパク漏出性胃腸症……………(竹本忠良)…449	(1) 代謝性疾患……………484
14) 吸収不良症候群……………(細田四郎)…450	(2) 血液疾患……………484
15) 乳糖不耐症……………453	(3) 全身性感染症における消化管病変……………484
16) ブラインドループ症候群……………454	(4) 動脈硬化症……………484
17) 慢性便秘と慢性下痢……………(笹川 力)…455	3) 消化管疾患と全身症状……………485
(1) 慢性便秘……………456	
(2) 慢性下痢……………456	
18) 過敏性大腸症候群……………457	

第7章 肝・胆道の疾患

I 肝の疾患……………487

1. 肝機能検査法とその評価……………(鈴木 宏)…487	6) Niemann-Pick 病……………538
1) 肝機能検査法とその意義……………487	7) ボルフィリン症……………538
2) 肝機能検査法の読み方とその選択……………489	17. 他の疾患に伴う肝障害……………(辻井 正)…539
2. 黄疸とその鑑別……………(鈴木 宏)…490	1) 感染症と肝……………539
1) ビリルビンの代謝と病態生理……………490	2) 膠原病と肝……………539
2) 黄疸の鑑別……………491	3) サルコイドーシスと肝……………540
3. 体質性黄疸……………(滝野辰郎・高橋示人)…492	4) 糖尿病と肝……………540
4. 胆汁うっ滞……………(佐々木 博)…496	5) 甲状腺機能亢進症と肝……………540
5. 肝不全……………(太田康幸)…500	18. 肝膿瘍……………(服部 信)…540
6. 腹水……………502	19. 肝腫瘍……………(服部 信)…542
7. 門脈圧亢進……………(堀口正晴・田中照二)…503	20. 妊娠と肝……………(辻井 正)…545
8. HB 抗原……………(真弓 忠)…505	1) 正常妊婦の肝機能と肝組織像……………545
9. 急性肝炎……………(上野幸久)…509	2) 妊娠時の黄疸……………546
1) 急性ウイルス肝炎……………509	(1) 妊娠性急性脂肪肝……………546
2) 異常な経過をとる急性肝炎……………513	(2) 妊娠性反復性肝内うっ滞症……………546
(1) 無黄疸型肝炎……………513	(3) 妊娠中毒症……………546
(2) 劇症肝炎……………513	(4) 妊娠に併発したウイルス肝炎……………546
(3) 亜急性肝炎……………513	(5) 既存の肝疾患に及ぼす妊娠の影響……………546
(4) 胆汁うっ滞型肝炎……………513	21. 肝腎症候群……………(辻井 正)…547
10. 慢性肝炎・亜急性肝炎・ルポイド肝炎……………(佐々木 博)…514	22. 寄生虫による肝疾患……………(辻井 正)…547
1) 慢性肝炎……………514	1) 肝吸虫症……………547
2) 亜急性肝炎・ルポイド肝炎……………516	2) 日本住血吸虫症……………547
11. 肝硬変症および肝線維症……………(高田 昭)…518	3) 肝包虫症……………548
1) 肝硬変……………518	II. 胆道の疾患……………549
2) 特殊型肝硬変……………525	1. 最近の検査法……………(増田久之)…549
(1) うっ血性肝硬変……………525	1) 胆嚢・胆管造影法……………549
(2) 原発性胆汁性肝硬変……………525	2) 低緊張性十二指腸造影法……………549
(3) 寄生虫性肝硬変……………525	3) 血管造影法……………549
3) 肝線維症……………525	4) 超音波検査法……………549
(1) 先天性肝線維症……………525	5) 放射性アイソトープ診断法……………550
(2) 特発性門脈高圧症……………525	2. 先天異常……………(増田久之)…550
12. 肝静脈閉塞症……………(高田 昭)…525	1) 先天性胆管閉鎖……………550
(1) 急性 Budd-Chiari 症候群……………526	2) 先天性総胆管拡張症……………551
(2) 慢性 Budd-Chiari 症候群……………526	3. 胆石症および胆嚢炎……………(増田久之)…551
13. 門脈閉塞症……………(高田 昭)…527	1) 胆石症……………551
14. 薬剤性肝障害……………(浪久利彦)…528	2) 胆嚢炎……………555
15. アルコール性肝障害……………(伊藤 進)…530	4. 胆道炎……………(海藤 勇)…555
16. 代謝性肝疾患……………531	5. 胆道ジスキネジー……………(海藤 勇)…557
1) 脂肪肝……………(高橋善弥太)…531	6. 胆嚢・胆管の腫瘍……………(海藤 勇)…558
(1) 急性妊娠脂肪肝……………532	1) 良性腫瘍……………558
(2) Tetracycline による脂肪肝……………533	2) 胆嚢癌・胆道癌……………559
(3) 胆汁うっ滞を伴う急性脂肪肝……………533	第8章 リウマチ性疾患およびアレルギー性疾患
(4) Zieve 症候群……………533	I. リウマチ性疾患……………561
(5) Reye 症候群……………533	1. リウマチ性疾患の概説……………(水島 裕)…561
2) ヘモクロマトーシス……………533	a. 概 念……………561
3) アミロイドーシス……………534	b. 基本的知識……………562
4) Wilson 病……………536	
5) Gaucher 病……………(辻井 正)…537	

c. リウマチ性疾患の臨床	565
2. リウマチ性疾患の分類	(吉沢久嘉) 566
3. 結合組織疾患(後天性)あるいは膠原病	569
1) 結合組織疾患(膠原病)と免疫異常	(広瀬俊一) 569
2) 慢性関節リウマチ	(橋本明) 572
3) 全身性エリテマトーデス	(横張龍一) 576
4) 進行性全身性硬化症	(村田克己) 582
5) 多発性筋炎および皮膚筋炎	(東威) 586
6) Sjögren 症候群	588
7) アミロイドーシス	590
8) 壊死性血管炎	(谷本潔昭) 591
(1) 多発動脈炎	592
(2) 過敏性血管炎	593
(3) Schönlein-Henoch 紫斑病	593
(4) Wegener 肉芽腫症	593
(5) 巨細胞動脈炎	593
(6) 高安動脈炎	593
9) リウマチ熱	594
4. 痛風	(赤岡家雄) 596
5. Behçet 病	(清水保) 598
II. アレルギー性疾患	603
1. アトピーの概念	(川上保雄) 603
a. 「アトピー概念」誕生の歴史	603
b. アトピーの特徴	604
c. アトピーの発生に関与している因子	604
d. アレルギーの分類とアトピー	605
2. IgE と IgE 抗体	(宮本昭正) 606
a. IgE の構造	606
b. IgE の機能	606
c. 年齢と IgE	607
d. 遺伝と IgE	607
e. アレルギー性疾患と IgE	607
f. IgE 抗体	607
3. 気管支喘息	(小林節雄) 608
4. 花粉症	(信太隆夫) 615
5. 薬剤アレルギー	(村中正治) 616
6. その他のアトピー性疾患	(高橋昭三) 621
1) アレルギー性鼻炎	621
2) じんま疹	622
付. 血管性浮腫	623
3) アトピー性皮膚炎	624
4) 胃腸アレルギー	624
5) アレルギー(アトピー)性結膜炎	624
6) アナフィラキシー	624
7. アトピー性疾患の治療	(可部順三郎) 625
a. アレルゲンの回避	625
b. 特異的減感作療法	625

c. 非特異的療法(変調療法)	626
d. 対症療法	626

第9章 腎・尿路系の疾患

1. 総論	629
a. タンパク尿	(浦壁重治・折田義正) 629
(1) 採尿に関する注意点	629
(2) 尿タンパク検出法	629
(3) タンパク尿の臨床	629
(4) タンパク尿の発生機序	630
(5) 尿タンパクの諸成分	630
b. 尿沈渣異常	630
(1) 沈渣鏡検時の注意	631
(2) 沈渣成分の種類と意義	631
(3) 沈渣所見の読み方	632
c. その他の尿異常	632
(1) 尿の外観	632
(2) 尿量と比重	632
(3) 尿 pH	633
d. 腎機能の評価	633
(1) 主な腎機能検査	633
(2) 腎血漿流量・糸球体濾過量	633
(3) PSP 排泄試験	634
(4) Fishberg 濃縮試験	635
(5) 血清尿素濃度・血清クレアチニン濃度	635
(6) その他の検査	636
e. 水・電解質代謝	(竹田亮祐) 637
(1) 水・電解質代謝の生理	637
(2) 水・電解質代謝の異常	639
(3) 水・電解質代謝異常と輸液	639
(4) 水・電解質異常と輸液	644
f. 酸-塩基平衡	(越川昭三) 646
(1) 生体の酸-塩基平衡調節	646
(2) 酸-塩基平衡における腎の役割	647
(3) アシドーシスと腎	647
g. 浮腫	648
(1) 体液量の調節	648
(2) 浮腫	649
(3) 腎疾患と浮腫	650
h. 高血圧	(田中政・本田西男) 650
(1) 腎性高血圧の発生機序	650
(2) 腎疾患と高血圧	650
i. 安静・食事療法	(杉野信博・清水美津子) 651
(1) 安静・食事療法の重要性和理由	651
(2) 安静療法のポイント	651
(3) 食事療法のポイント	653
j. 薬剤療法	(田中謙次郎) 655
(1) 利尿薬の適応および注意点	655

(2) ステロイド剤の適応・禁忌・注意点, ネフローゼ症候群に対する使用法	656	8) 腎疾患時の貧血・多血症	707
(3) 化学療法剤の適応および注意点	657	9. 水腎症	708 (河村信夫)
(4) その他の薬剤療法	658	10. 腎・尿路の結石	709 (河村信夫)
k. 透析療法	658 (杉野信博・三輪東一郎)	1) 腎結石・腎盂結石	709
(1) 原理	659	2) 尿管結石	709
(2) 透析療法の適応	659	3) 膀胱結石	710
(3) 透析開始時期	659	4) 尿道結石	710
(4) 透析療法の実際	660	11. 腎・尿路の腫瘍	710 (河村信夫)
(5) 腹膜透析と血液透析の特徴	661	1) 腎嚢胞	710
(6) 長期透析患者の合併症	661	(1) 孤立性腎嚢胞	710
(7) 長期透析患者の予後	662	(2) (先天性) 多発性嚢胞腎	711
1. 腎移植	662	2) 腎腫瘍	711
(1) 組織適合試験	662 (佐藤 威)	(1) 良性腫瘍	711
(2) 手術手技	662	(2) 悪性腫瘍	711
(3) 拒絶反応と抗免疫療法	663	3) 腎盂腫瘍	712
(4) 腎移植の現況	663	4) 尿管腫瘍	712
2. 腎不全	664 (中川成之輔)	5) 膀胱腫瘍	712
1) 急性腎不全	664	6) 前立腺肥大症	713
2) 慢性腎不全	667	7) 前立腺癌	713
3. 糸球体腎炎	670 (吉沢信行)	8) 尿道腫瘍	713
(1) 急性糸球体腎炎	672	12. 腎・尿路の結核	713 (河村信夫)
(2) 慢性糸球体腎炎	674	13. 腎・尿路の奇形	715 (河村信夫)
(3) 膜性腎症	676	1) 腎の奇形	715
(4) 巣状糸球体腎炎	678	2) 腎盂・尿路の奇形	715
付. 遺伝性腎炎	679	3) 膀胱の奇形	715
4. ネフローゼ症候群	679 (酒井 紀)	4) 尿道の奇形	715
5. 腎盂腎炎	685 (松本文夫)	14. 妊娠と腎	716 (加藤暎一)
6. 原発性尿管管疾患	690 (折田義正)	15. 中毒性腎疾患	718 (石本二見男)
7. 腎の循環障害	691 (本田西男)		
1) 腎硬化症	691		
(1) 腎動脈硬化症	691		
(2) 細動脈性(または良性)腎硬化症	691		
(3) 悪性腎硬化症	692		
2) 腎梗塞	693		
3) 両側性腎皮質壊死	693		
4) 腎静脈血栓症	694		
5) 腎血管性高血圧	694		
6) 心不全によるうっ血腎	696		
8. 全身性疾患と腎障害	697		
1) 糖尿病腎症	697 (高桜英輔)		
2) 痛風腎	699 (木田 寛)		
3) アミロイド腎	700		
4) 膠原病および近縁疾患	701 (篠田 曙)		
(1) ループス腎炎	701		
(2) その他の膠原病の腎障害	705		
5) サルコイドーシス	705 (大沢源吾)		
6) 多発性骨髄腫	706		
7) 白血病	706		

第10章 内分泌系の疾患

1. 内分泌学総論	721
1) 内分泌系による生体調節	721 (清水直容)
2) ホルモンの作用の調節	721
3) ホルモンの作用機序	722
4) プロスタグランジンの関与	724
5) ホルモンと臨床医学	724
2. 下垂体前葉	725
1) 形態・発生	725 (井村裕夫)
2) 下垂体前葉ホルモン	726
3) 視床下部下垂体系	729
4) 下垂体機能検査	730
5) 下垂体前葉機能低下症	731 (出村 博)
6) 前葉ホルモン単独欠損症	734
7) 下垂体性小人症	735
8) 下垂体腫瘍	738
(1) 末端肥大症・巨人症	739
(2) ACTH 分泌過剰症	740
(3) プロラクチン産生下垂体腫瘍	741